

「オープンソースソフトウェアがもたらす経済価値とリスクの検証」

# OSSライセンス・コンプライアンスの 必要性と対策

2009年5月20日(水) 青山ダイヤモンドホール

NEC・姉崎 章博



**OSS License  
Checked!**

# OSS知財関連への関わり

- 日本Linux協会 (JLA) 理事。Linux商標調査WG代表として調査を実施
- NECグループ内部のOSS/Linux IP情報の問い合わせ対応に従事
- 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) の非常勤研究員を兼務し  
OSS BOOKS「オープンソースで構築！ITシステム導入 虎の巻」を企画・製作
- OSSライセンス・コンプライアンスのコンサルティング・サービスを開始

[日本Linux協会 | 日本Linux協会ワーキンググループ | Linux®商標調査]

## Linux®商標調査

### 目的

日本におけるLinux商標の現状を調査・把握し、これを参照しやすくするまとめ、特許法律事務  
で自由に安心して使用できること。

### Linux商標の登録・出願状況

2007年3月23日現在、独立行政法人 工業所有権情報・研修館 特許電子図書館「初心者向  
X0208で入れる必要がありますを検索すると、「Linux」単独の文字列での登録・出願は下記の

商標出願・登録 番号	出願日	出願人	区分
1. 登録4333699	1998.12.10	←(株)内田洋行	18
	2000.1.18	→登録公報発行日	
2. 登録4346339	1999.3.12	←松本 東喜雄、上原 潤	16

### 監修

創英国際特許法律事務所 弁理士 工藤 莞司

### 活動期間

1999-06-04より

### 連絡先

Linux商標調査へのご連絡は [JLA@linux.or.jp](mailto:JLA@linux.or.jp)までお願い致します。

### メンバーリスト

代表:	姉崎 章博(NEC)
メンバー:	渡辺 真次(ソフトバンクパブリッシング) 樋口 貴章(サン・マイクロシステムズ)





@IT総合トップ > テクノロジー > Linux Square > OSSライセンスが求める条件とは？

PR 職業ハッカーが記事では書けないプロの技を生公開！



## 第2回 OSSライセンスが求める条件とは？

この連載では、企業がオープンソースソフトウェアとうまく付き合い、豊かにしていくために最低限必要なライセンス上の知識を説明します。(編集部)

NEC  
姉崎 章博  
2009/2/5

いまや、企業が何らかのソフトウェアを開発するときに、オープンソースソフトウェア(OSS)との付き合いを考えずには済まない時代になりつつありま

<http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/osslc02/osslc02a.html>

LinuxSquare

スポンサーからのお知らせ

- ▶ Core2 Quad対応で容量わずか4.9リットル  
Dualディスプレイ対応ワークステーション  
低電力版プロセッサ採用で快適静音仕様
- ▶ パフォーマンスと静音性を高次元で両立。  
34dBという驚異的な静音性を実現する、  
超静音型ワークステーション！
- ▶ 一日に約3億のログと戦う、セキュリティアナリストがどのような視点でログ分析しているのか、増え続けるログにどう対処するのか語る！
- ▶ 中小企業も実行可能なDRソリューションとは？  
3/6(金)@IT情報マネジメント 中堅・中小企業のための事業継続計画とIT災害対策セミナー

- PR -



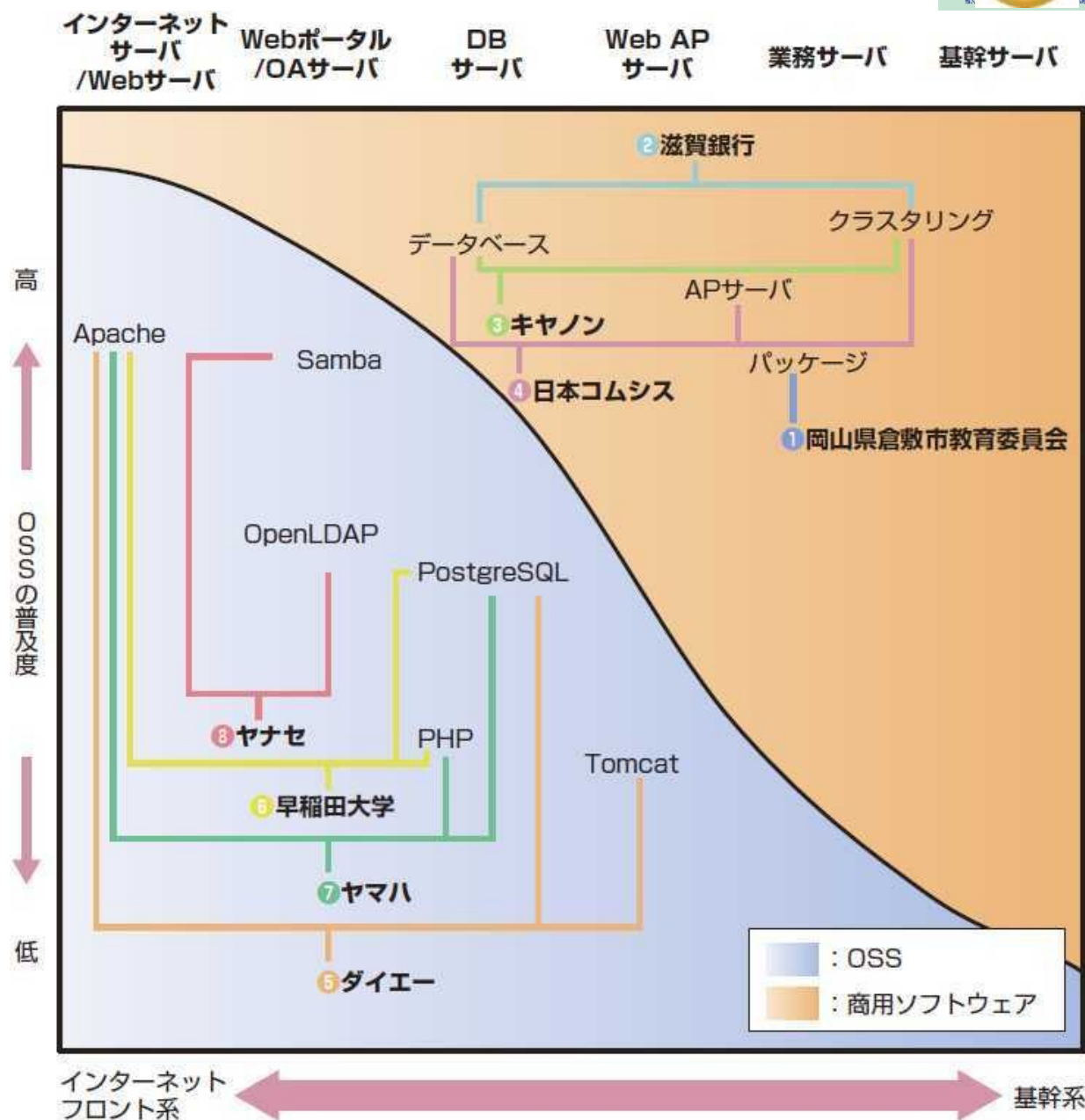
「IPAの本にもこう書いてある」と使ってほしい





# OSS iPediaに登録されているSI事例の一例

- ◆ 岡山県倉敷市教育委員会  
倉敷市学校園ネットワーク(NEC教育ポータルシステム「学びの扉」)
- ◆ 滋賀銀行  
地方銀行の情報系システム
- ◆ キヤノン  
「ビジネス文書」管理ASPサービス C-Cabinet V2
- ◆ 日本コムシス  
現場施工管理システム
- ◆ ダイエー  
店舗業務オペレーションシステム
- ◆ 早稲田大学  
履修情報管理
- ◆ ヤマハ  
音楽ポータルサイト
- ◆ ヤナセ  
ユーザ認証システム



# 書籍のために取材したユーザ事例

- 一般企業におけるOSSを活用したIT システムの構築事例
- 事例ごとにOSS活用においての注目すべきポイントを列挙



## OSS活用事例取材先一覧

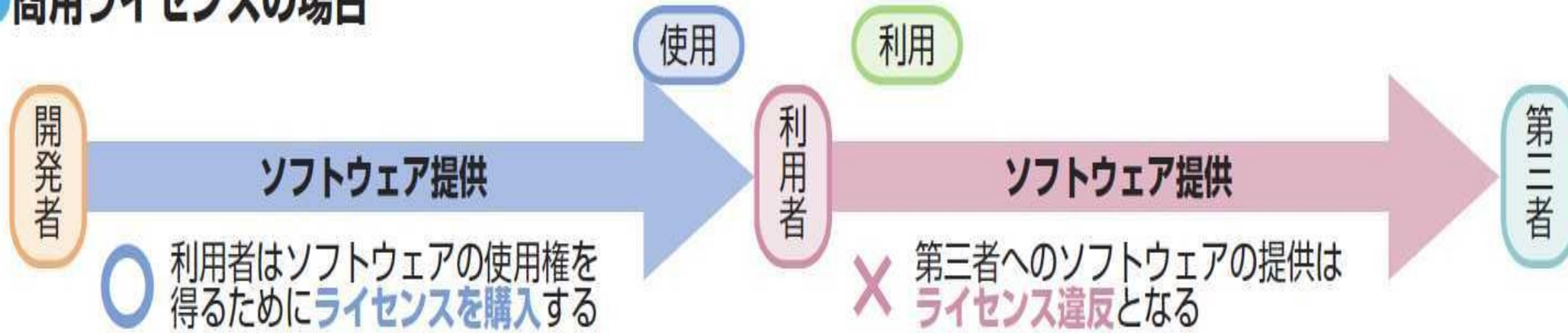
■ = 商用ソフトウェア

取材先企業	Webサーバ/ インターネットサーバ	Web ポータル/ OAサーバ	DBサーバ	開発言語/ 環境	Web AP サーバ	業務アプリケーション	その他
キョードー北陸	Apache		PostgreSQL	PHP			
プロトコーポレーション	Apache		PostgreSQL/ MySQL				
ソリューション ファクトリー						MosP 勤怠管理 (マインド社)	
東洋精器工業	Apache	Samba	PostgreSQL	PHP		PukiWiki/ FPDF	
GMOインター ネット証券	Apache		Oracle	Spring Framework/ Struts/Java	JBoss/ Tomcat	自社開発	CLUSTERPRO (クラスタリング)
住友電気工業	Apache		PostgreSQL	Eclipse/Java	Tomcat	自社開発	Xen (仮想化基盤)

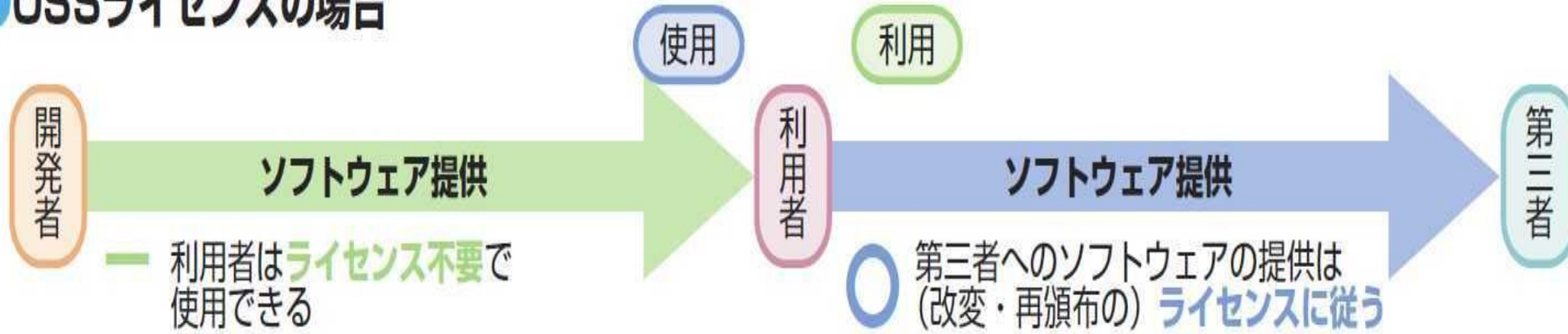
～OSSを活用したシステム構築・導入の勧めの本ですが、ライセンスについても触れています。

# 再頒布できることがOSSライセンスの商用との違い

## ●商用ライセンスの場合



## ●OSSライセンスの場合





# OSSライセンスは、プログラムの「利用」の際の許諾

- 「**利用**」(exploit)とは、複製や公衆送信等著作権等の支分権に基づく行為を指す。
- 「**使用**」(use)とは、著作物を見る、聞く等のような単なる著作物等の享受を指す。
- 「平成10年2月 文化庁 著作権審議会マルチメディア小委員会 ワーキング・グループ中間まとめ」での定義[http://www.cric.or.jp/houkoku/h10\\_2/h10\\_2\\_main.html](http://www.cric.or.jp/houkoku/h10_2/h10_2_main.html)

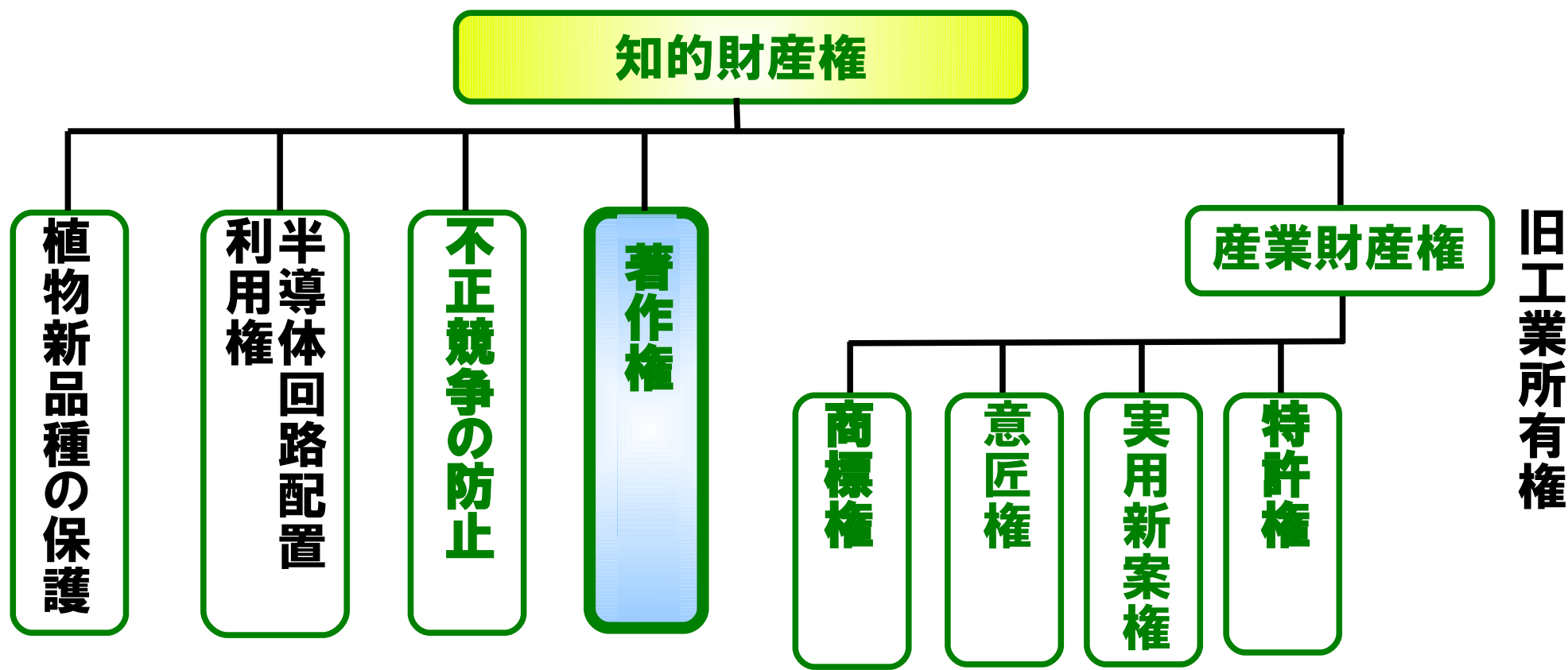
		使用	利用(著作権者の権利)			
著作物		-	複製権	翻訳権	公衆送信権 /頒布権	など
権利に 対応す る行為 (厳密 では ない)	書籍	本を読む	出版、複写	翻訳		
	音楽	聞く、鼻歌を歌う	CDを作製	編曲する	TV放送する	
	ソフトウェア	バイナリを実行	ソースの複製	改造する	再頒布する	
	商用ソフトウェア/ シェアウェア/フリーウェア	使用許諾書	一般的にはソース非開示にして禁止			
	オープンソースソフトウェア	自由	利用許諾書			



# 著作物の権利：著作権は、知的財産権の一つ

日本国では

- IP「知的財産」: Intellectual Propertyの略
- 工業所有権や著作権に加え、現在では、さらに多くの対象を含めて、広い意味で使われています。



# プログラムは、著作権法で保護される著作物

- コンピュータ・プログラムは、著作権法で保護される著作物の一つです。
  - 著作権法 第10条（著作物の例示）に挙げられています。
  - 「著作物」としては、他に、「小説、論文、脚本、講演」「音楽」「絵画」「映画」「写真」などがあります。
  - 著作権に含まれる権利の種類（第21条～第28条）
    - 複製権、公衆送信権、頒布権、譲渡権、翻訳権等、**二次的著作物の利用に関する原著作者の権利**など
- ソフトウェアの**ライセンス**は、「著作物の**利用**の許諾」（著作権法 第63条）
  - その許諾に係わる利用方法及び条件（同条2項）が**ライセンス条文**

※日本の著作権法に基づいて説明しています。

以下、特別に断らない限り、日本国での説明です。

# 当然のことながらオープンソースソフトウェア (OSS) は、

- 「単に、自由に使えるもの」ではありません。
  - 著作権が無いため(あるいは失効した)許諾不要なパブリックドメインソフトウェア(PDS)ではありません。
- OSSライセンスと総称される、ライセンスがあります。

**自分の開発物件として納品してはいけません。**



# 守るべきOSSライセンス条件の概要 (ソース開示の観点のみ)

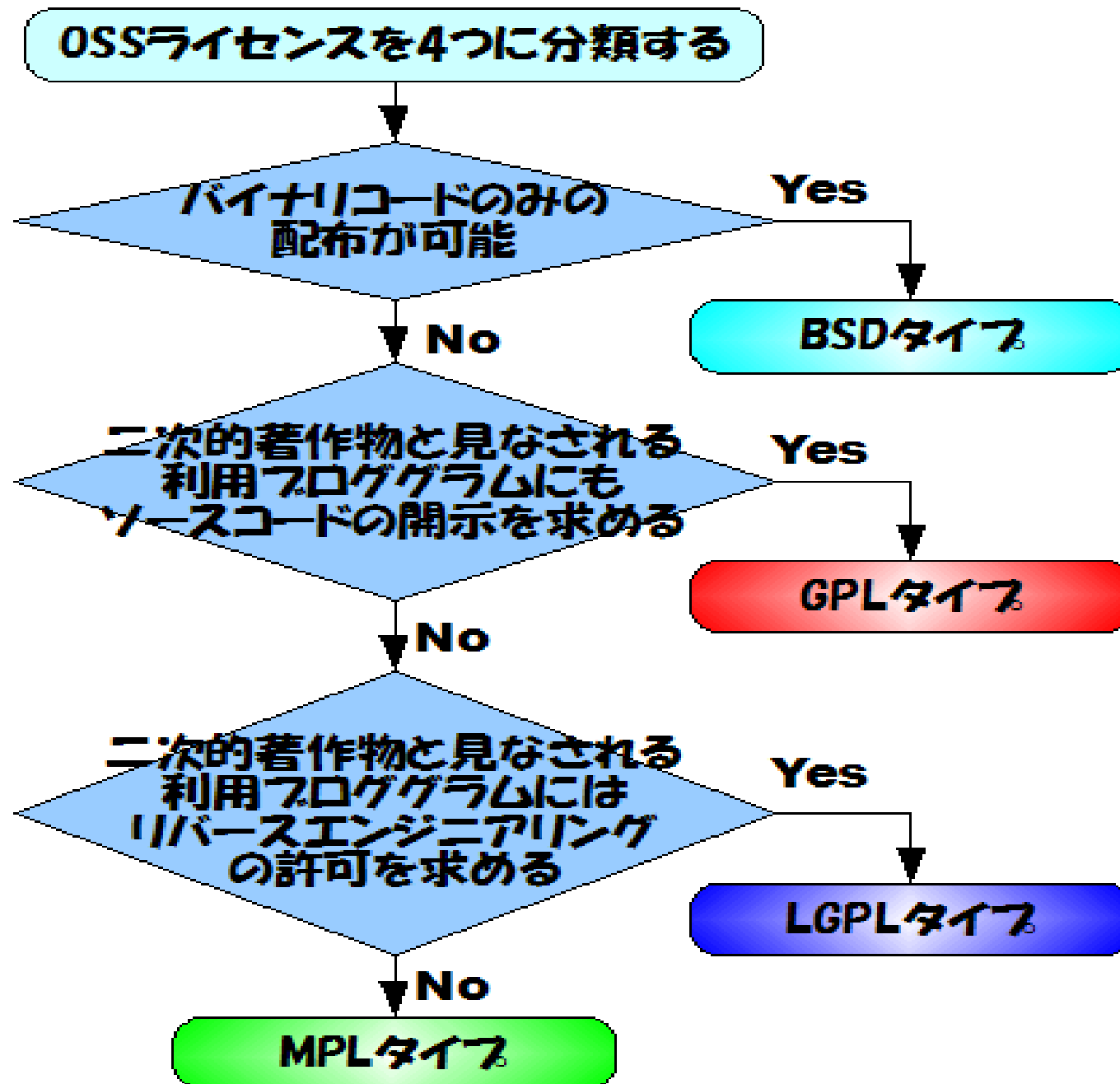
- ① ソースの開示 (OSS自身 + GPL利用プログラム)
- ② LGPLを利用したプログラムのリバースエンジニアリングの許可
- ③ ドキュメントに必要な記載 (BSDタイプのバイナリ配布のみの場合)

	ライセンスタイプ	自身の扱い	その他の扱い
OSS ライ セン ス	BSDタイプ	バイナリ形式のみの配布可	ソース開示しないならば、著作権表示、ライセンス文、免責条項などの記載が必要③
	MPLタイプ	バイナリ形式のみの配布不可  ソース開示要 (Copyleft) ①	
	LGPLタイプ		(二次的著作物とみなされる)利用プログラムのリバースエンジニアリングの許可 ②
	GPLタイプ		(二次的著作物とみなされる)利用プログラムもソース開示要①

- BSDライセンス : Berkeley Software Distribution License
- MPL : Mozilla Public License
- LGPL : GNU Lesser General Public License
- GPL : GNU General Public License

例え、商用プログラムでも

# OSSライセンスを4つに分類するフローチャート



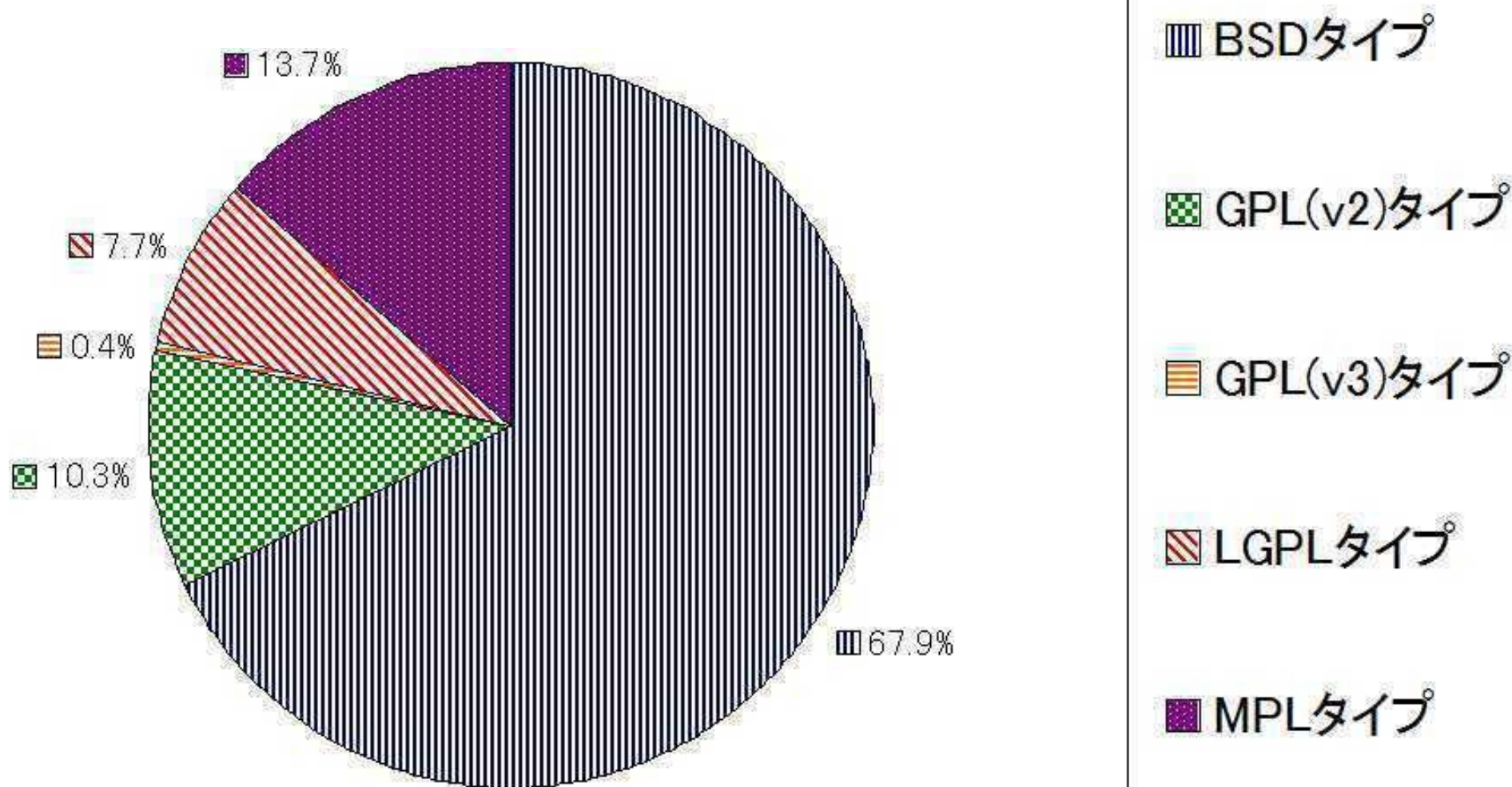
# 4タイプに分類できる、OSSライセンスとOSSの例

Apacheライセンスの  
OSSの利用が目立つ

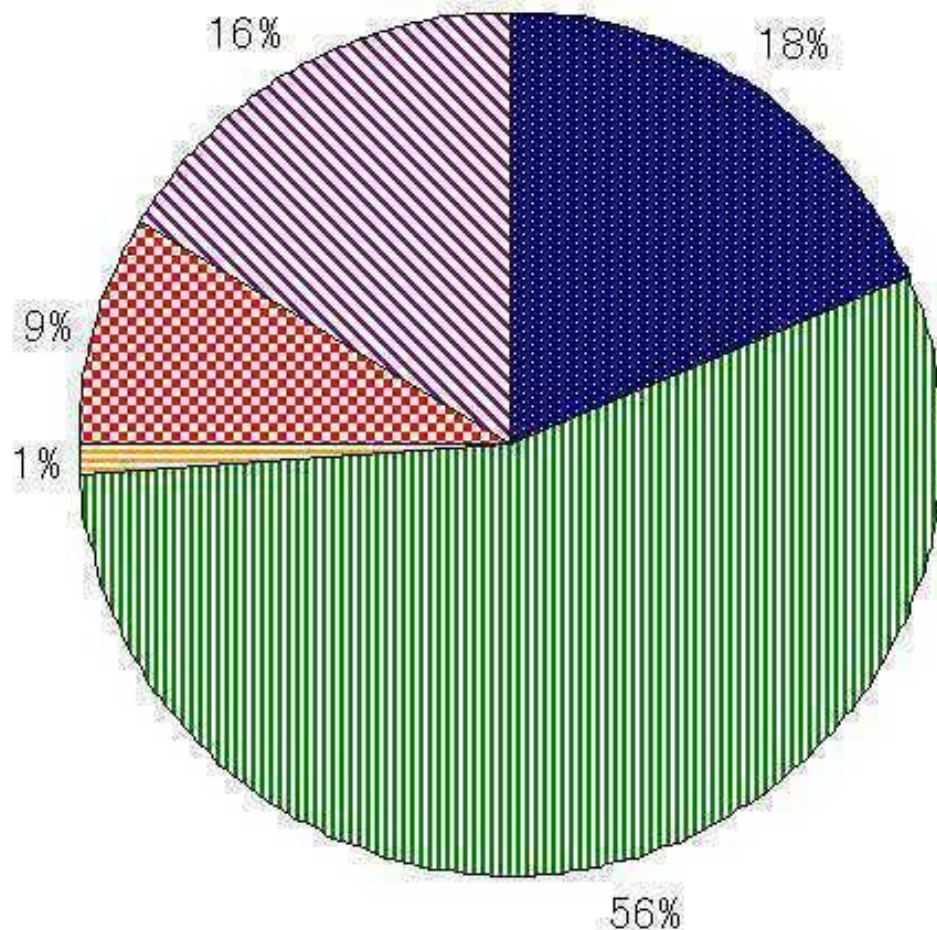
タイプ	OSSライセンス	OSSの例
BSD系	BSD License	PosegreSQL, dom4j, OpenSSH, など
	OpenSSL License	mod_ssl, OpenSSL, など
	Apache License 2.0 (2004年ごろまでなら、Apache Software License, version 1.1 の可能性あり)	Apache HTTP Server, Tomcat, Axis, Commons, Jakarta Velocity, XML Xerces, Struts, Spring, Ajax Libs, ant, log4j, など
	Cryptix General License	Cryptix
	Info-ZIP License	Info-ZIP
	zlib License	TinyXML, など
	MIT License	PuTTY, など
	その他多数	
MPL系	Eclipse Public License (EPL)	Eclipse, など
	Common Public License Version 1.0 (CPL)	SyncML, など
	その他多数	
LGPL系	LGPL2.1	glibc, JBoss4.2.2, OpenOffice.org, など
GPL系	GPLv2	MySQL(商用ライセンスとのデュアルライセンス, FLOSS ライセンス除外規定あり), Linux カーネル, gcc(スタートアップライブラリlibstdc++.so, libgcc_s.soには例外記述あり), Samba3.0.x, Pukiwiki1.4.7, PDFCreator, など
	GPLv3	Samba3.2.x, tcIPAMなど
	Affero GPL(AGPL)v1	affero
	その他いくつか	



# ある部門での利用OSSライセンスタイプ別割合



# ある部門での利用BSDタイプの内訳



■ Apache Software License 1.1

▨ Apache License 2.0

▨ Apache Software License 1.1 / Apache License 2.0

▨ new BSD License (3条項)

▨ その他

# 近年、ソース非開示での訴訟事例が急増

従来、MySQLなど企業製OSSでのライセンス違反の訴訟が主であったが、昨年からSoftware Freedom Law Center(SFLC)がOSS開発者の代理人となって提訴

- 2007年9月 デジタル家電メーカーを提訴

<http://opentechpress.jp/opensource/article.pl?sid=07/09/26/0051222>

- 2007年11月 無線機器メーカーの2社を提訴

<http://opentechpress.jp/opensource/article.pl?sid=07/11/27/0136228>

- 2007年12月 無線ルータで米東海岸キャリアを提訴

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20071210/289099/>

- 2008年7月 ネットワーク機器ベンダーを提訴

<http://www.heise-online.co.uk/open/Extreme-Networks-accused-of-having-violated-GPL-open-source-license--/news/111150>

✦ 機器組込ソフトだからと言って油断できない。

✦ (改変していなくても) GPLのBusyBox, Linuxのソースは開示が必要



# 2008年12月11日 FSFがCiscoを提訴

- Ciscoの無線関連製品ブランド「Linksys」の販売において、FSFが著作権者の多数のプログラムのライセンスに違反したと、FSFは主張し、FSFの代理人としてSFLCが提訴
  - GCC, binutils, GNU C Library
  - FSF: Free Software Foundation, GNUプロジェクトの推進団体



概要

CAMPAIGNS

VOLUNT

news → Free Software Foundation Files Suit Against Cisco For GPL Violations

## Free Software Foundation Files Suit Against Cisco For GPL Violations



BOSTON, Massachusetts, USA -- Thursday, December 11, 2008 -- The Free Software Foundation (FSF) today announced that it has filed a copyright infringement lawsuit against Cisco. The FSF's complaint alleges that in the course of distributing various products under the Linksys brand Cisco has violated the licenses of many programs on which the FSF holds copyright, including GCC, binutils, and the GNU C Library. In doing so, Cisco has denied its users their right to share and modify the software.

<http://www.fsf.org/news/2008-12-cisco-suit>

# 他人の著作物の知的所有権を主張したとされた例

- 2005年当時のある県の電子申請システムのインストールプログラム (jarファイル) とともに、Apache License 2.0で要求しているライセンス文とNOTICEファイルを添付していなかった。

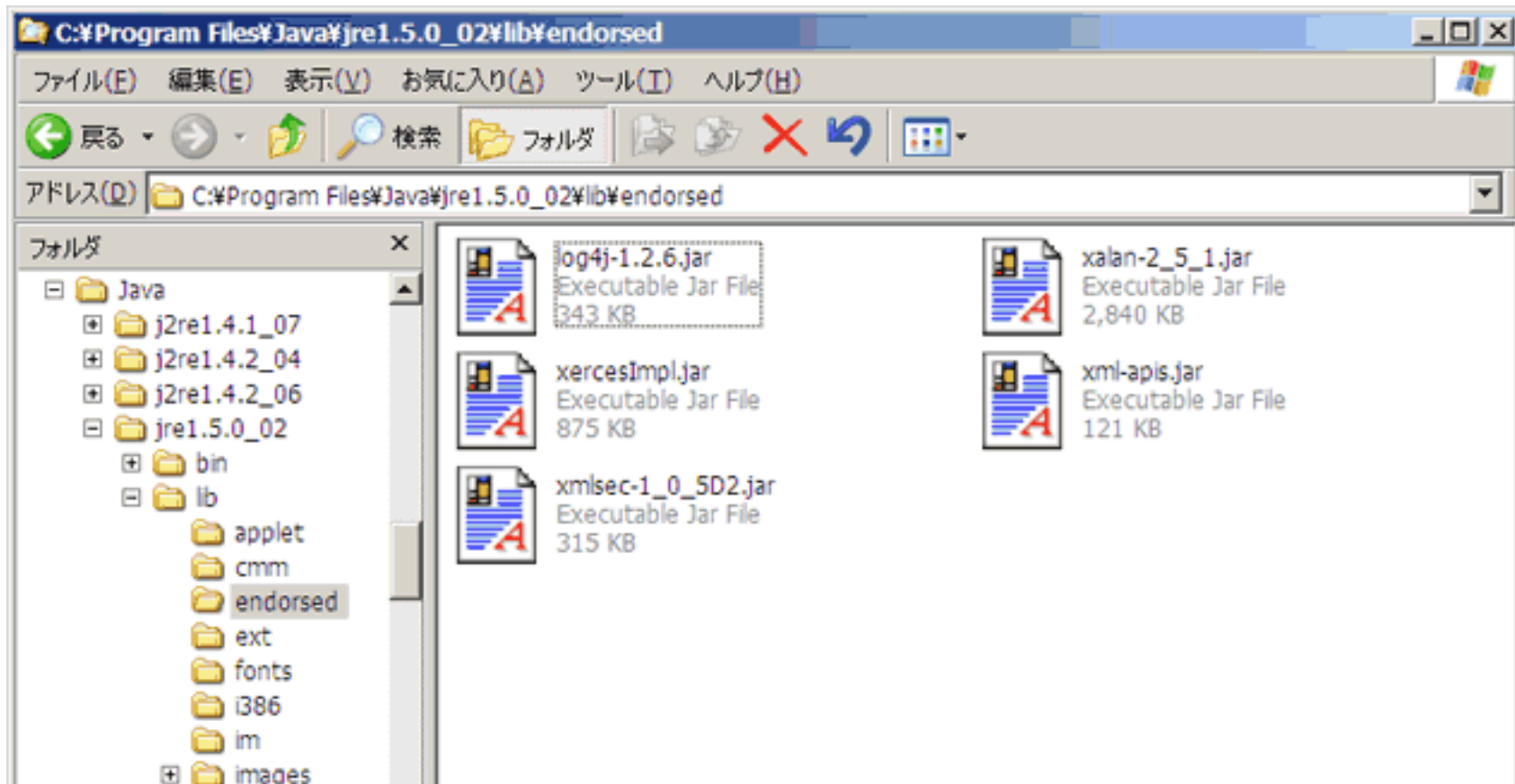


図3のように、**Apacheのライセンス文書は削除されていて存在しないし、インストーラやアプリケーションの実行時にどこかに表示されるわけでもない。**

**「Apache Software Foundationによって開発されたソフトウェアを含みます」といった一言さえない。**

**にもかかわらず、「本インストールツールに関する著作権及びその他の知的所有権は、岡山県に帰属します」という。**

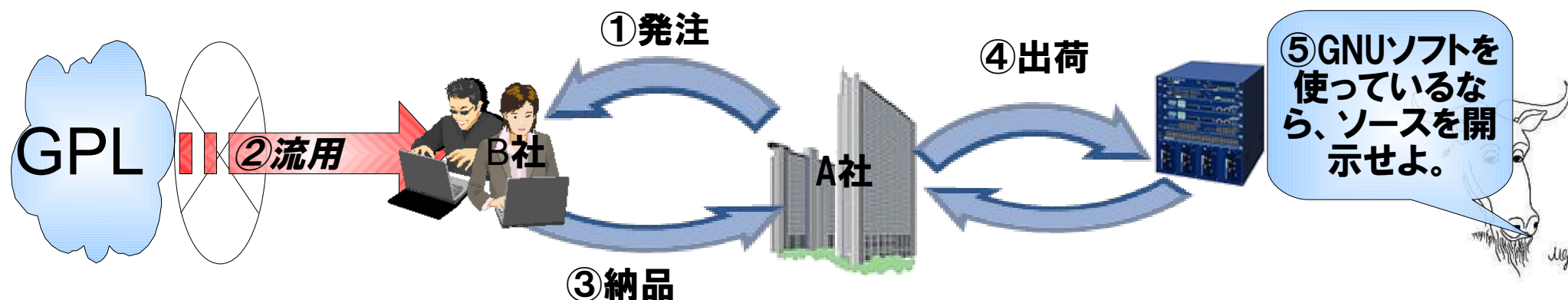
<http://takagi-hiromitsu.jp/diary/20050718.html>

# 他人の著作物を利用していないことを確認するため コード検査をしていますか？

➡すべて自社開発のつもり、が一番危険かもしれません。

## ⚠ OSSライセンスに関するトラブル例

ある企業A社が、自社ブランドの製品としてハードウェア製品を販売した。しかし実際の開発は下請けのB社が行っており、ファームウェアの一部としてGPLが適用されたプログラムが使われていた。A社はこの事実をまったく把握しておらず、ユーザからの問い合わせ（ソースコード開示の要求など）に適切に対応できなかった。





# 対応を誤る背景に、IPコンプライアンスの欠如

理由はどうであれ、他人の著作物（プログラム）を私する行為は許されません。

納期遵守、工数削減のためOSSをこっそり利用。

費用削減のため利用しているのだから  
ライセンス遵守してられない

ハードウェアに組み込まれてしまえば、  
OSSを使っていると言わなければ、分からないだろう

使えるんだから勝手に使っているんでしょ？

ライセンスを知らずに良かれと思ってやっているので  
悪くない

# ライセンスの確認ステップ1

## 1. 各モジュールのライセンスが何か確認し、そのライセンスに準拠する

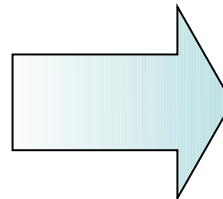
それぞれのモジュールに別のライセンスが混入してライセンスが変わることが無いことを確認が必要。

➤ protexIPなどのコード検査ツールが役立ちます

商用  
ライセンス?

BSD  
ライセンス?

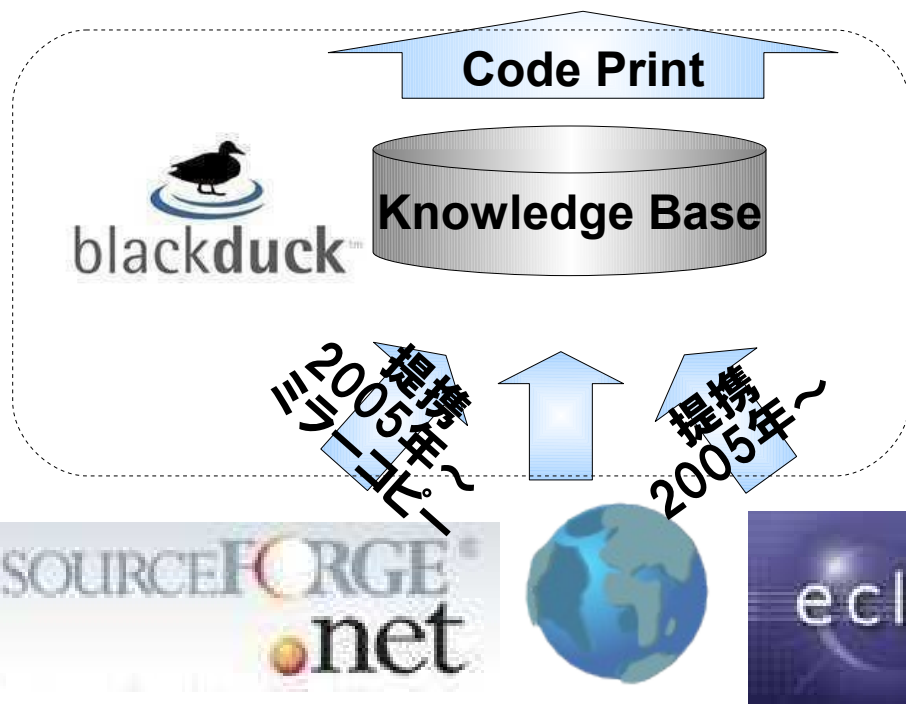
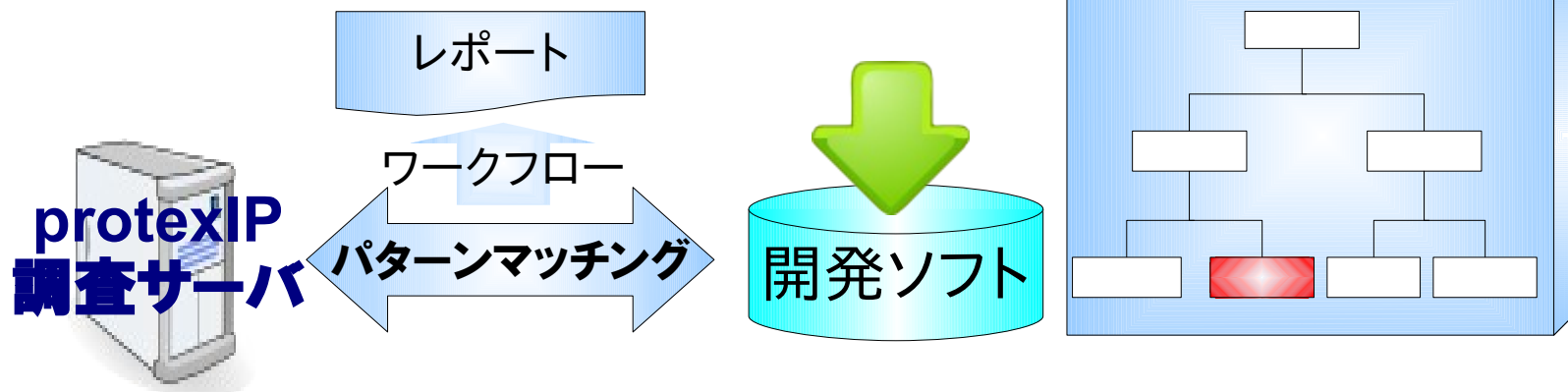
GPL  
ライセンス?



ライセンスがConflictするソース混入がなければ、それぞれのライセンスの要件を満たしていることを確認する。

# 何を使っているか分からない/問題無いことを確認したい →protexIPがモジュール毎に疑わしいコードを検出します

- 自社開発ソフト中の思わぬOSSコード混入を出荷前に検出し、意図しない自社コード開示義務やネット上でのバッシングとなる事態を未然に抑止します。



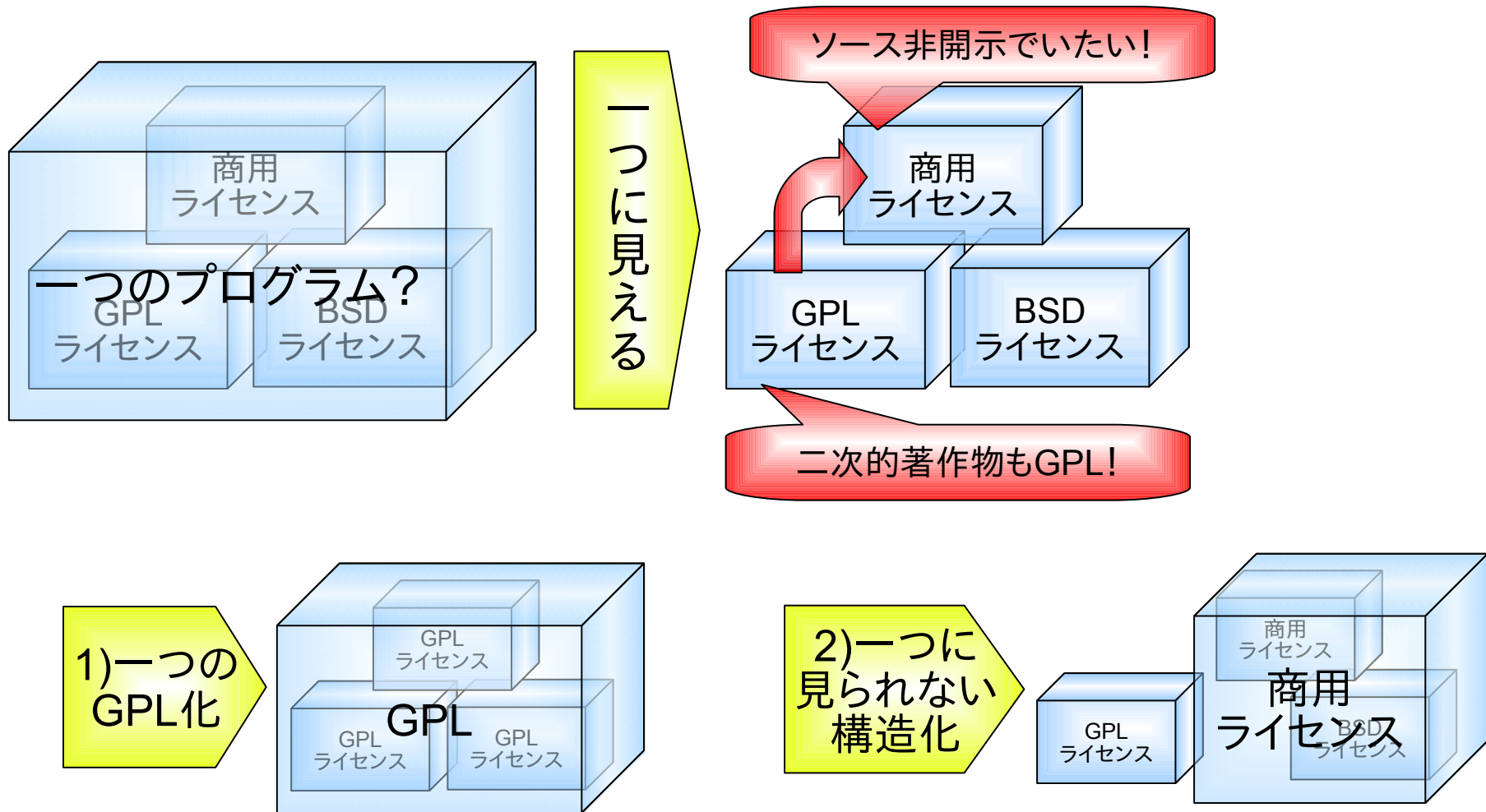
この後のセッション、および  
Webサイト を参照願います。

<http://www.nec.co.jp/oss/protexip/>

# ライセンスの確認ステップ2

## 2. モジュール間の結合度から、1つのプログラムと見えますか？

- 見えるならば、それぞれのライセンスを遵守しようとする、モジュールのライセンスを変える必要がある場合があります。





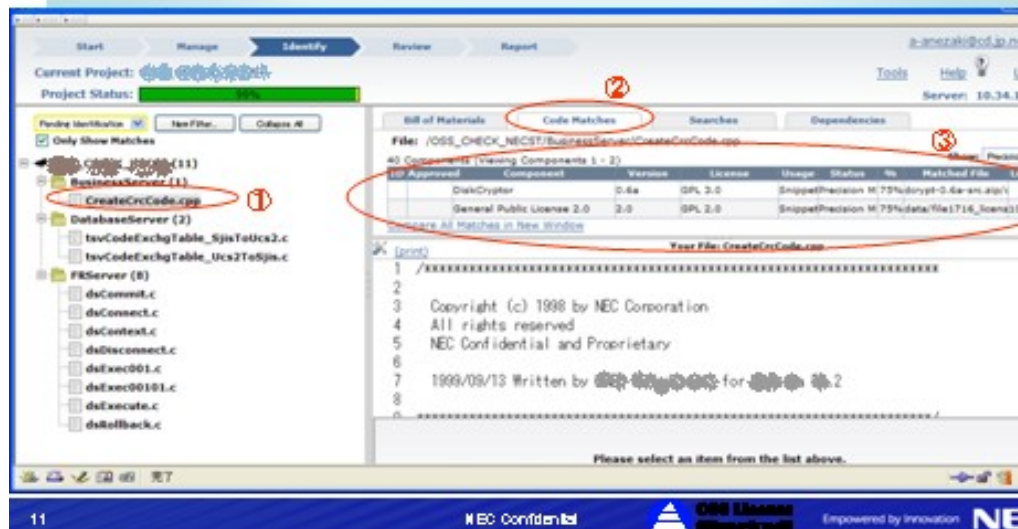


# 既存製品の確認ステップ2-1: Protexに掛けた結果で、OSS流用無しを確認する

- 一致が見つかったソースコードが、一般的なコード変換テーブルや、事前に除外しなかったプリプロセッサ出力などであれば、OSS流用ではない、と確認できます。

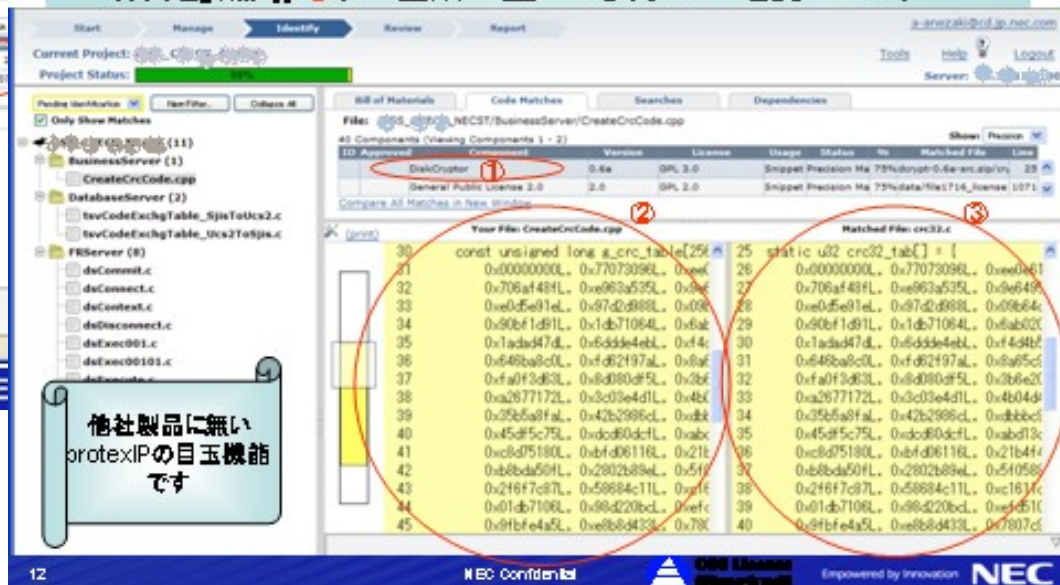
## protexIP (クライアントPCでチェック) 手順-9

9. 一致が見つかったファイルの一つCreateCrcCode.cpp①をクリックし、「Code Matches」タブを選択②すると、一致したOSSの候補が現れる③。



## protexIP (クライアントPCでチェック) 手順-10

10. 一致したOSSの一つDiskCryptor①を選択すると一致したCreateCrcCode.cppのg\_crc\_table[256]②と、crc32.cのcrc32\_tab[]③の箇所が並んで表示され確認できる。



他社製品に無い  
protexIPの目玉機能  
です

# 既存製品の確認ステップ2-2: 問診票における11の問い

- Q1. その商用プログラム、すべて自社の著作物ですか？
- Q2. 他社の商用プログラムを同梱している場合、必要な手続きはお済みですか？
- Q3. 他人の著作物を利用していないことを確認するためコード検査をしていますか？
- Q4. OSSの「使用」、つまり一部ソース流用も含め、OSSを一切同梱していないですか？
- Q5. 単なる同梱でもOSSの「利用」です。ライセンスを遵守していますか？
- Q6. BSDタイプのOSSライセンスでも許諾要件があります。要件を満たしていますか？
- Q7. GPL/LGPL/MPLタイプのOSSはソース開示していますか？
- Q8. LGPL OSS機能の利用プログラムのリバースエンジニアリングを許可していますか？
- Q9. GPLタイプOSS機能の利用プログラムのソースを開示していますか？
- Q10. 遵守しやすいように、**ライセンス毎に分けたプログラム構造、物件管理**をしていますか？
- Q11. 利用する**OSSに還元**していますか？

この11の問いに沿った「ソフトウェアライセンスに関わるプログラム開発ガイド」セミナー (3H)を受講して  
いただいて、問診表を記入願う形です。



## 「ソフトウェアライセンスに関わるプログラム開発ガイド」セミナー (3H)

- @ITの記事の「著作権法」のレベルから「使用・利用の違い」、CPL,LGPL,GPLなどのライセンスの注意点まで幅広くお話します。

### 著作権はIP (知的財産) のひとつ

日本国では

- IP「知的財産」: Intellectual Propertyの略
- 工業所有権や著作権に加え、現在では、さらに多くの対象を含めて、広い意味で使われています

これらの「権利の正当性は普遍ではない」。

- ✓ 登録済みの特許だろうが、商標だろうが、「無効審判請求」が可能
- ✓ 2005年9月「一太郎・花子の販売差し止め請求事件」
- ✓ 知財高裁、ジャストの主張を全面支持。松下の特許
- ✓ 商標法50条「3年以上...使用していないとき」

プログラムの「使用」と「利用」

- 「利用」(exploit)とは、複製や公衆送信等著作権等の
- 「使用」(use)とは、著作物を見る、聞く等のような単なる
- 「平成10年2月 文化庁 著作権審議会マルチメディア中間まとめ」での定義 <http://www.cric.or.jp/houkoku/>

知的財産

- 植物新品
- 半導体回路
- 不正競争
- 著作権

### 再頒布の有無によるソース開示の要/不要の例

OSSライセンスは「再頒布の際のライセンス」(使用/利用の利用)であることに注意

NEC

NTT DoCoMo

一般ユーザ

自社

NEC Confidential

### CPL (MPLタイプ) で要件を見落とした事例

Common Public License

一般ユーザ

機器販売

C社は改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

①C社が販売する機器に組み込むプログラムをライセンス販売する契約で開発受託

②B社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

③C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

④C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑤C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑥C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑦C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑧C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑨C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑩C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑪C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑫C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑬C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑭C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑮C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑯C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑰C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑱C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑲C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

⑳C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉑C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉒C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉓C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉔C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉕C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉖C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉗C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉘C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉙C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉚C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉛C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉜C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉝C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉞C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㉟C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊱C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊲C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊳C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊴C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊵C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊶C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊷C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊸C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊹C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊺C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊻C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊼C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊽C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊾C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

㊿C社が改変しないのでOSSライセンスは関係無いとA社側が思っていたのが見落とし原因。

### Linux上でのGPL伝播の概要 (端的な表現であり要注意)

- GPLの伝播性が気になる場合: 標準インターフェースのみを利用したアプリ、LGPLライブラリをリンクしたアプリは、ソースの開示を要求されない
- デバイスドライバに異なる意見があるが、開示を前提に開発するのが無難

Linux上でのGPL伝播の概要 (端的な表現であり要注意)

①ソースの開示: Linuxのデバイスドライバはモジュール(動的リンク)であってもGPLであることを求められる

②プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

③プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

④プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑤プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑥プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑦プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑧プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑨プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑩プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑪プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑫プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑬プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑭プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑮プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑯プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑰プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑱プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑲プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

⑳プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉑プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉒プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉓プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉔プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉕プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉖プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉗プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉘プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉙プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉚プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉛プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉜プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉝プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉞プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㉟プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊱プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊲プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊳プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊴プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊵プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊶プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊷プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊸プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊹プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊺プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊻プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊼プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊽プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊾プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物

㊿プログラムの開示: プログラムは、開発者=著作権者の著作物



# OSSライセンス・コンプライアンス コンサルティング・サービス



**OSS License  
Checked!**



## ● **自社製品のOSSライセンス・コンプライアンス強化を組織的に取り組みたい** OSSライセンス・コンプライアンス強化支援 (個別見積もり)

- 品質管理プロセスにチェックポイントを設け、コンプライアンスを強化したい
- 実態調査の方法について相談したい、等

## ● **実際の製品について、相談をしたい** OSSライセンス・コンサルティング (個別見積もり)

- ツールで意図しないOSSの混入を見つけたが、どういう対応が必要か
- 導入する製品にOSSが使われているが、OEM元の対応で大丈夫か、等

## ● **プログラム開発に必要なOSSライセンス全体の知識を知りたい** 「ソフトウェアライセンスに関わるプログラム開発ガイド」セミナー (3H)

- OSSライセンスの全体像を知りたい
- 利用プログラムのソース開示が必要なGPLの伝播範囲を知りたい、等

## ● **OSS活用におけるリスクに対して、部門の啓発から始めたい** 「OSS活用におけるリスクと対策」紹介 (1H)

- OSSライセンス違反での訴訟事例や非難された事例を知りたい
- OSSライセンスは何を求めているのか概要を知りたい、等



# 組織の底上げ、お客様対応のリスク軽減にWeb教育はいかがでしょう

- ライセンスの理解なしにOSSの利用はリスクを伴うことを知ってもらう。
- ソースコードをお客様に提供しなければならないOSSが製品に含まれているものがあることを知ってもらう。

## 目次

- 第1章 OSSとは
- 第2章 OSSライセンスの基礎
- 第3章 OSSライセンスの概要
- 第4章 OSSライセンス違反のトラブル 概要

取扱注意

Q1-1. OSSライセンスは、以下のどの権利を許諾した  
ものですか？  
a. 特許権 b. 商標権 c. 著作権 d. 基本的人権

Q1-2. 以下のうち、  
えくください。  
a. Linuxカーネル  
d. JRE e. Apache

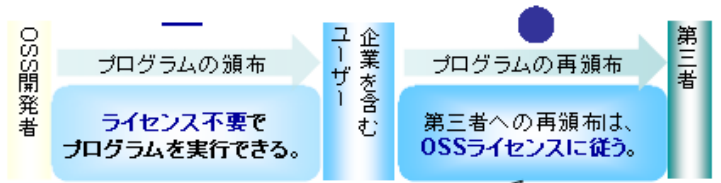
Q2-1. 著作権法の言葉でいうと、  
「OSSライセンスは、プログラムの[ x ]の際の許諾で  
す。」 xに当てはまる言葉の一つを選びなさい。  
a. 利用 b. 使用 c. 出荷 d. 購入 e. 販売

Q2-2. 実務での言葉でいうと、  
「OSSライセンスは、プログラムの[ y ]の際の許諾で  
選びなさい。  
閲覧

OSSのライセンスは、再頒布の際の「許諾」。  
プログラム実行時の許諾は必要ありません。

取扱注意

- ◆ プログラムの権利を保護する著作権法には、「使用权」という概念がありません。
- ◆ 著作権法の公衆送信権や翻訳権などの支分権に基づく行為である「利用」を  
許諾するものがOSSでのライセンスとなります。



著作権(の支分権)に基づく行為は、  
OSSライセンスを遵守しなければ、  
著作権法違反となります。

OSSライセンス・コンプライアンス

13/44

LinuxのデバイスドライバはGPL

取扱注意

①ソースの開示: Linuxのデバイスドライバはモジュール  
(動的リンクであってもGPLであることを求められます。

- ◆ デバイスドライバはGPLであるLinuxを利用するプログラム(二次的著作物)とみなされるため、Linuxカーネルのメーリングリスト(ML)で、Linuxの主著作権者であるLinux Torvalds氏が以下のように述べています。

There is NOTHING in the kernel license that allows modules  
to be non-GPL'd.  
参考訳:  
カーネルライセンスに、モジュールが非GPLであることを許すものは何もない。

出典: <http://lwn.net/Articles/13066/>

- ◆ 2001年頃、あるLinuxディストリビューションの文書に、  
「A. カーネルに動的にリンクされるロード可能ドライバには所有権を付けられます。」と書いていたことも、誤解を増長させたかもしれません。
- ◆ また、リリース毎でのデバイスメーカーのドライバ提供が遅れるため、**現在、Express5800 Linuxサービスセットでバイナリのみ提供のデバイスドライバはありません。**

OSSライセンス・コンプライアンス

22/44

# 社内情報共有サイトを立ち上げてはいかがでしょうか？

## 1. 製品情報

製品名	★Apache Log4j 1.2.13	
製品主管部門	第一工程部・ソフトウェア事業部	
使用しているOSS	OSS名	用途
	なし	
利用しているOSS	OSS名	用途
	★Apache Log4j 1.2.13	v4.1
	★Apache Struts 1.2.7	v4.1
	★Apache Tomcat 6.0.16	v4.1
	★GnuWin32 - giflib 4.1.4~4.1.4-1	v4.1
	★PHP 4.4.7	v4.1
	★libpng 1.2.18	v4.1
	★zlib 1.2.3	v4.1
	★Ming - an SWF output library	v4.1

## 利用OSS一覧

## ライセンスの主要件 利用OSS

## 2. OSS情報(ライセンス名等)

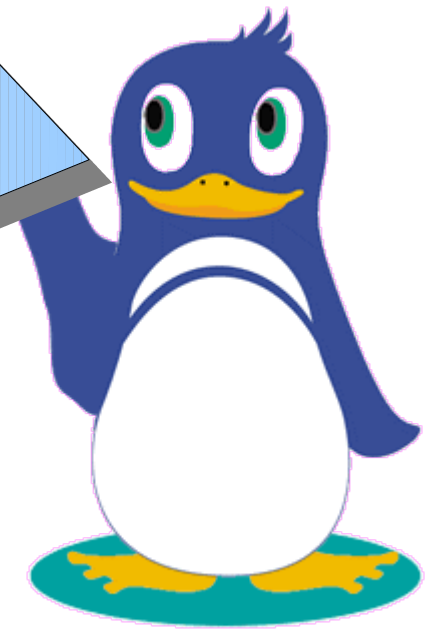
OSS名	★Apache Log4j 1.2.13
英文読み	
カテゴリ	Java/Javaコンポーネント
担当部門	
ライセンス	名称 Apache License 2.0 特記事項
使用製品名	
利用製品名	

## 3. ライセンス情報

ライセンス検索	
説明	Apache License 2.0
関連	
Top	
最終	
Apache License 2.0	
ライセンス条文	<a href="http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0">http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0</a>
ライセンス条文の参考日本語訳	<a href="http://sourceforge.jp/projects/opensource/wiki/licenses%2FApache_License_2.0">http://sourceforge.jp/projects/opensource/wiki/licenses%2FApache_License_2.0</a>
タイプ	BSDタイプ
ライセンス条文中の主要件	<p>「4. 再頒布」の条件: ソース形式であれオブジェクト形式であれ、変更の有無に関わらず、以下の条件をすべて満たすこと。</p> <p>(1) ライセンスのコピーも渡す。</p> <p>(2) 変更を加えたファイルによくわかるような告知</p> <p>(3) ソース形式に含まれている著作権、特許、商標、帰属の告知を残す。</p> <p>(4) NOTICEファイルがある場合、(i)同梱 (ii)ドキュメント記載 (iii)表示 のどれか一つ以上</p> <p>「3. 特許ライセンスの付与」で、「使用料無料で取り消し不能な特許ライセンスを付与」したことになるので留意。また、「特許報酬復条項」とも言われる「コントリビューションが特許侵害と特許訴訟を起こした場合、付与された特許ライセンスが終了」することに留意。</p>
OSS	ant Apache Apache Jakarta BCEL 5.2 Apache Velocity

## 最後に

**OSSへの還元が増えて、  
OSSの発展に繋がるのであれば、  
商用製品でOSSを正しく使う  
ことも歓迎される(はず)**





## お問い合わせ先

- コンサルティング・サービス: <http://www.nec.co.jp/oss/IPconsul/>
- Protex(protexIP) : <http://www.nec.co.jp/oss/protexip/>

Empowered by Innovation

NEC

